

## 問② コロナ禍における運営や活動について、下記について教えてください。

### 回答

#### 困ったこと

- ・ 積極的に人を呼べない。
- ・ 密になると困る。
- ・ 行事ができない(小・中学校対象の)⇒子どもを集められない。
- ・ 研修が減った。
- ・ 特にありません。密を意識し、積極的にお誘いがしにくい現実があります。
- ・ 子ども達が食事の後も遊んだりできるので楽しみにしているが、大勢集まって食事をしたり遊んだりが新潟も感染がおさまらないので、できないので残念です。
- ・ 食を通じて多世代交流していく活動が中心だったため、食以外の方法でつながりが持てる事を模索しなければいけなかった。
- ・ 三密を避けるために、利用者の人数を制限しなければならなくなった。そのため、遊びに来られた方を断ることもあった。
- ・ 消毒の仕方、おもちゃの使い方、講座をするための注意しなければならないことなどが、どのようにすればよいかわからなかった。
- ・ 人数制限(分かっては、いるが利用できない方が出してしまうこと)

#### 良かったこと

- ・ 予約制にし、限られた人数で安心して遊ぶ。
- ・ 建物の大きさに対して適正な人数で運営活動できている。
- ・ 本当に支援の必要な子どもが浮き彫りになった⇒逆もアリ
- ・ ゆとりのある建物のため、子ども達が嬉しそうに走り回る姿を見て、居場所の重要性を実感します。
- ・ ありません。
- ・ 今までの生活や当たり前の事を見直す機会になり、活動を考える中で地域にあるもの昔から大切にされている事などを取り入れるきっかけになった。
- ・ 休館中家で過ごすことが多かった利用者の方から、地域に支援センターの必要性を感じたというような声が聞かれた。
- ・ 手洗い、消毒、換気を徹底して行ってきたからか、風邪などの感染症にかかる方が殆どいられなかった。(家庭でもやっていたこともあると思う)また継続して手洗いや検温をやってもらったことで、子どもも習慣化してきたように思われる。
- ・ 市のほうから細やかな情報がコロナの状況が変化する度に届き、どのようなところに気をつけなければならないのか、どのようにしなければならないのかなどがとても良くわかり、支援センターを利用されている方向けのおたよりもあり。利用者の方もおたよりを持って帰る方もいらっやって良かった。
- ・ 支援センターの会議も今までより多く設けて頂いて、各支援センターの先生方と情報交換や日常の細かなところまで注意点を丁寧に教えて頂いて、とても心強く勉強になり安心できた。そのおかげで落ち着いてご利用して下さる方をおむかえすることができ、日頃の仕事もスムーズにできるようになったと思っている。
- ・ 予約制にしたことで事前準備がやりやすい、スペースを空けることでゆったり参加できる。